

## 第5回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

開催日時 平成25年7月25日(木) 13時30分より15時35分まで

開催場所 土浦商工会議所 ホール

出席者数 委員16名 オブザーバー2名

出席者名

- ・中川喜久治(土浦商工会議所副会頭)
- ・大澤 義明(筑波大学)
- ・伊藤光二郎(土浦都市開発㈱常務取締役)
- ・横山 和裕(土浦商工会議所副会頭)
- ・説田 和彦(土浦商工会議所青年部会長)
- ・五頭 英明(土浦市副市長)
- ・小泉 裕司(土浦市副市長)
- ・木村 芳弘(土浦商店街連合会)
- ・的場 弘幸(土浦商店街連合会理事)
- ・勝田 達也(NPO法人まちづくり活性化土浦理事長)
- ・中台 義保(土浦市地区長連合会顧問)
- ・山根 幸美(土浦市女性団体連絡協議会調査研究部会長)
- ・茅根 務(土浦市金融団幹事行)
- ・豊田 高久(土浦市金融団幹事行)
- ・池田 正(土浦農業協同組合)
- ・池田 正雄(つくば国際大学教授)
- ・横田 清泰(内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐)
- ・清水 伸(茨城県商工労働部中小企業課 助川オブザーバー代理)

(土浦市)

- 塚本 盛夫(市長公室長)
- 久保谷秀明(産業部長)
- 東郷 和男(都市整備部長)
- 飯村 甚(商工観光課長)
- 船沢 一郎(都市計画課長)
- 鈴木 豊(土浦駅北開発事務所長)
- 石山 淳一(教育委員会生涯学習課長)
- 杉田 真彦(教育委員会文化課長)
- 塚原 秀文(教育委員会生涯学習課図書館長)
- 大貫三千夫(教育委員会生涯学習課図書館新図書館開設準備室長)
- 伊藤 孝(土浦駅北開発事務所所長補佐)
- 北島 康雄(商工観光課長補佐)
- 登坂 裕明(商工観光課主幹)
- 飯泉 貴史(まちづくり推進室室長)
- 長坂 英治(まちづくり推進室主幹)
- 中泉 梢(まちづくり推進室主事)

(事務局：土浦商工会議所)

- 松井 修一(総務部長)
- 飯野 晃(商工振興課長)
- 石井 政男(中心市街地活性化協議会事務長)
- 森内 靖雄(中心市街地活性化協議会係長)
- 菅原 伸司(中心市街地活性化協議会主幹)

## 1. 挨拶

(中川会長)

暦の上では大暑を過ぎとても暑い中、又お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

中心市街地活性化協議会も今回で5回目を迎えます。前は土浦市庁舎のあるべき方向性を協議いただきましたが、今回は図書館が主題です。駅前の核となる事業を通じて中心市街地をどう活性化するのか議論が深まってくると思います。

前回もお話しましたが、私は土浦だからこそできる活性化を考えた時に、交通の要所にあつて、霞ヶ浦を中心市街地に位置付けた事に対し、思いを出さなければならないと思いますし、市庁舎が駅前に移転するわけですから、当然市として、又職員としての覚悟を持つべきだと強く思っています。

本日の主題は図書館です。個人的には、中心市街地をもっと懐広く考えれば、駅に近すぎると思っておりましたが、駅前への位置づけが決まりましたので、それを最大限活かせる施策を協議いただきたいと思います。

駅前の施策を考える上で、必ず上がる課題が駐車場の問題です。公共性を持つ庁舎や図書館が駅前に建つのに、個々に駐車場が必要なのかという思いがございます。

今日は内閣官房の横田参事官補佐も見えておりますが、中心市街地を活性化するには、空きスペースを活かすことも含めて、駐車場を集約する仕掛けが、国の施策として必要だと感じています。

前回会議では、駅前の回遊性を持たせるために、庁舎の駐車場を30分から1時間無料にすることが必要だというご意見がありましたが、図書館や庁舎の利用以外が駐車することも考えられますので、中心市街地の駐車場が抱える課題に対し、良い知恵が出せればと強く思っています。

今日の茨城新聞に土浦の新図書館の絵が記事として掲載されていましたが、図書館の運営は全国でも話題になっています。佐賀県の武雄市や宮城県の多賀城市でも、TUTAYAを展開するカルチュアコンビニエンスクラブ(株)に運営を任せる自治体もあり、集客を生む一方で街に対する様々な議論を呼んでいるようです。土浦にとっても図書館建設は、ハード・ソフト両面から非常に大きな影響がありますので、本日は皆さんから忌憚のない意見をいただきたいと思います。

又、これまでの協議で多くの意見を頂いておりますが、この意見がどのような形で市の施策に反映されているか、市当局から報告を受けながら進行したいと考えております。これらを積み上げて行く事で、会の運営も建設的に進められますし、皆さんの意見も重みも増してくることと思います。

本日も、皆さんのお力添えをいただきながら、活発な協議ができますようお願いいたします。冒頭のあいさつとさせていただきます。

## 会議概要

報告事項

(事務局)

会議に必要な、定足数を満たしている旨を確認。

日本再興戦略における中心市街地活性化について

(横田オブザーバー)

6月14日に閣議決定いたしました、日本再興戦略について、ご説明いたします。

政府は、地域の再生なくして日本の再生は無いと言う基本理念に基づきまして、新たな成長戦略を決定いたしました。

安倍政権では、「大胆な金融政策」、「機動的な財政出動」「民間投資を喚起する成長戦略」の

3政策を「三本の矢」として同時展開することとしております。

一本目の矢である大胆な金融政策は一言でいうと、異次元の金融緩和です。デフレから脱却する上で金融緩和が必要であることは、政府内でも議論がなされておりましたが、日本銀行の動きが鈍かったのが実情です。日銀の総裁が代わったことを機に政府の基本方針にあった形で金融政策を打つこととなりました。

結果として、株価が上昇しており、一定の成果はあったと言えます。株価ですので右肩上がりには行きませんが、現在は調整局面から上昇傾向に向かっている状況と見ています。

財政再建を含めて財政政策は非常に重要だと思っております。

日本経済は、ポテンシャルは持っておりますが、これまで活かしきれていなかったということです。いわゆる湿った経済を発火するというのが2本目の矢でありました。

そして、3本目の矢が、日本再興戦略というサブタイトルが付けられていますが、最終目標として企業や国民が自信を回復し、期待を行動に変えることで新たな成長戦略を打ち出しています。

具体的には、10年間で名目GDPを3%、実質GDPを2%上昇させることを目指します。これにより、10年後に一人あたりの名目国民総所得を150万円拡大されることを目標としています。

これを実現するために様々な施策を政府として考えて行く事となります。具体的な成長への道筋ですが、大胆な金融政策と、機動的な財政政策を受けて、投資をしてもらう事が目的です。企業や国民の自信を回復して、先ず景気が上向いて行くという期待を持つことで消費に繋がり、成長に結びつくと考えております。

GDPの6割は消費によるものですので、物が売れなければGDPは上がりません。先ずは、物が売れる環境を整備することが重要で、その結果として国民の皆さんの暮らしが繁栄することを目指すものであります。

具体的には、日本産業再興プラン、戦略市場創造プラン、国際展開戦略の3つのアクションプランに基づいて、新たな日本再興戦略に取り組んで行く方針です。

中心市街地の活性化は、日本産業再興プランの中に位置付けられております。

戦略市場創造プランは、少子高齢化社会を迎える中、皆さんが健康に暮らせるような社会を創るということを考えております。又、再生可能エネルギー等、これまでになかった新たな戦略的市場への投資や、安全で便利な次世代インフラの構築、地域資源で稼ぐ地域社会の実現等を創造するプランです。

国際展開戦略について、一つが戦略的な通商関係の構築と経済連携の推進です。今話題のTPPの経済連携ということになりますが、日本は昔から貿易国ですので、こういった形で、諸外国との良好な通商関係を築く必要があります。

二つ目の海外市場獲得のための戦略的取り組みですが、日本には良い製品が多いのですが、海外で黙って物が売れる時代ではありません。近年では薄型テレビ等も韓国製品にシェアを奪われている状況ですので、海外の市場を獲得する大胆な戦略を打つ必要があります。

更に、国際社会を生き抜く上で、資金や人材の基盤整備が重要であると考えています。

日本再興戦略の中に中心市街地活性化がどのように位置付けられているかですが、日本産業再興プランの中に、立地競争力の強化において、都市の競争力の向上という政策目標の中に位置付けております。基本的に、地方都市においても集約化を図り、都市構造の再構築を行って、人口減少の中で住宅・医療・福祉の機能をまちなかに誘導し、都市の活力維持・向上を図ることが政府の基本方針であります。

そのための具体策が、コンパクトシティの実現であります。

本年11月迄に国土交通省が中心となり、都市再興戦略を策定する予定です。現在審議会形式で議論を進めております。

コンパクトシティを唱えながら、実現できていない現状を踏まえ、スピード感を持って実現させてゆくための戦略を検討しているところです。

具体的には、支援措置と土地の利用制度を組み合わせる民間を活用した住居・生活機能のまちなかへの誘導。土浦でも言えることですが、空き地の集約化や空きビルの活用促進のための制度構築、公的な不動産の有効活用を図ること。これまで人口増加傾向、経済の拡大傾向にある社会においてはパイが広がって行きますので郊外に移転して行きましたが、人口減少社会にある昨今においては、この5～10年で状況をどう改善して行くかという観点で、身の丈に合った再整備を図ることが重要と考えております。

政府内でも議論になっているのが、空き店舗の流動化を促す新たな仕組みを作るために、投資や企業を喚起するということです。

日本再興戦略の究極の目的は、民間投資を軸とする中心市街地の活性化を図ることです。

日本再興戦略と合わせて、経済財政運営と改革の基本方針を打ち立てております。三本の矢の一体的な推進を通じて、再生の10年に向けた経済財政の運営と同時に成長戦略を打ち立てて行く形で、3つの好循環をマクロ経済の好転に導く状況を築くと同時に、経済再生につながるような、基盤整備に取り組んでおります。

6月に閣議決定され、7月31日から内閣官房においても、中心市街地活性化の新たな取り組みの制度改正に関する委員会を立ち上げて検討を進めることとなります。これまでも経済産業省の産業構造審議会や内閣官房においても論点整理は行ったところですが、これらを踏まえて中心市街地の活性化を図って行く事を検討しております。

これを取りまとめるのが12月までですので、11月までに成長戦略に基づいて具体化して行く予定です。土浦は来年の3月認定を目指して進めていますので、恐らく認定の段階では新たな制度の下で認定となります。そのため、従来型の意見に捕らわれず、多くのまちづくりに関わる皆さんの意見を計画に反映させ、国の基本方針にも合致する計画であれば、政府としても重点的に支援をして行くこととなります。今の補助金や交付金の枠にとらわれず、いわゆる特区制度を含めて検討すべきだと言う議論がなされております。

図書館建設も会長の言う通り、民間を活用することも政策の一つかもしれません。事業を実施するのは民間ですので、その方々の意見も極力反映し投資を喚起する計画になることが、土浦の中心市街地活性化には大変重要なことと考えております。

これらの観点に基づき、皆様のご意見をいただいて、より良い計画を策定していただきたいと思っております。

(山根委員)

2点伺います。説明いただいた戦略を、この計画に極力反映させるべきということで、規制改革もという具体的な話がありましたが、そのほかにも使える制度がありましたら教えていただきたい。

もう一点は、人口減少社会における戦略を考える中で、来訪型の都市型産業の立地を促進すると伺いましたが、来訪型の都市型産業とはどのようなものを指すのか伺いたい。

(横田オブザーバー)

日本再興戦略における規制緩和の取り組みの他についてですが、3つ考えがあります。

お話しした規制改革と、従来からある交付金や補助金を一層拡充すること、交付率を上げるということもあります。

もう一つは、税制改正です。中心市街地活性化を図るうえでは空き店舗活用が重要になります。現在財務省と調整をしておりますが、特定のエリアに絞ってインセンティブを付与するような税制優遇措置をとることです。

これらについては、現在議論が始まったところですが、中心市街地活性化の認定の枠組みで行うのか、中心市街地活性化特区という形になるのか、半年程度で方向性が示されると思っております。土浦においては、計画認定を受けて、いつでも特区に移行できるような計画づくりがなされることが理想であると思っております。

来訪型の都市型産業の立地ですが、基本的にはまちなかに来ていただくことが非常に重要でありますので、回遊する仕組みを作る必要があります。コンピューターを使って人がいなくてもできるような産業がある一方、人の力が必要な産業、いわゆる昔ながらの職人による熟練した技術が当てはまると思うのですが、なるべく人が集まることで生まれる産業が必要だと考えています。これに関しては、インキュベーションシステムを活用した形で、従来にないような新規産業の育成が必要と考えています。なるべく地域に密接なかかわりを持つような、産業を目指すことが重要ということです。

(中川会長)

県や国の出先機関を中心市街地に集めて行くこともコンパクトシティの方針にあると思いますが、移転の課題で上げられることが、今と同等の駐車場を確保するということです。

空き店舗対策でもありましたが、空き店舗より駐車場にしておいた方が良いと言うような考えで、駐車場になっている部分が相当あると思っています。空き店舗と駐車場の再整備といったものも、インセンティブを付与するような施策を打っていただけないかと考えています。

商店街は、店の前に車を停めて買い物をして欲しいと思っていることは分かるのですが、都市をコンパクト化する上で、施設を集約するには様々な矛盾が出てきます。国の方針が都市機能を集約することであるならば、空き店舗と駐車場はニアイコールで考えるべきだと思うのですが、いかがでしょうか。

(横田オブザーバー)

まさしく、ご指摘の通りです。

只今、見直しの議論が進められておりますが、これまでの理論ですと会長が言う通り、空き店舗には注目しますが、駐車場には目が向かないところがあります。

まちなかを歩いて暮らせるまちづくりが国の方針で、中心市街地までは、公共交通機関を利用していただきたいのですが、路面電車がある都市とは違い、土浦はバスになります。結局は車で行かなければならない現状ですので、駐車場対策を含めた形で再構築することが必要かと思えます。

たとえば、アパートやマンションを建設する際には軽減されるような措置がありますが、駐車場の固定資産税において、税制のインセンティブがないと思えます。駐車場を整備することもまちづくりには重要な局面と考えていますので、このような切り口も必要です。

いろいろな方の話を聴くと、駐車場の話題は必ず出てきます。街に来るには環境面から車を使わないでくださいと言いながら、実現できない現状にあります。基本理念と、実態が合っていないところもあり、活性化が図られなかった経緯がありますので、これらを踏まえ、今後は見直しを図って行く事が必要だと考えております。

都市基盤の整備については、国の方針として今後中心市街地に集約する基本方針が出されております。今後新たに整備するものについては中心市街地になります。従来型の郊外になることは、基本的にないと考えております。

## 協議

### 1 土浦駅前北地区第一種市街地再開発事業について

(土浦市土浦駅北開発事務 鈴木所長)

市街地再開発事業のしくみ

事業区域及び関連事業個所・経緯

基本方針の検討

各施設規模の変化

各階の構成図

資金計画の検討  
駅前東崎線整備事業  
西口ペDESTリンデッキ整備事業  
今後のスケジュール について説明

(中川会長)

冒頭でも申し上げましたが、武雄市は図書館をカルチュアコンビニエンスクラブ(株)で運営して、開館1か月で10万人もの来館者があったと聞いております。土浦にもこのような素晴らしい図書館が出来て、どのような影響が出るのか大変興味深いところです。

再三申し上げておりますが、コンパクトシティを目指す上で、図書館に専用の駐車場が必要か常に考えております。駐車場自体は生産性が低い設備ですので、駅前には価値のある建物や行政サービスを提供できる場を数多く集約し、駐車場は少し離れた場所に集約できる方策がないか考えております。

駅前に、市役所や図書館を建設していながら、駐車場が必要だという、中心市街地の公共交通に対する矛盾を背負うのではないかとということも感じております。

いずれにしても、図書館が駅前に出来ることは、大変ありがたいことですので、図書館単体の意見だけではなく、駅前の賑わい創出に寄与するという見解からもご意見をお伺いしたいと思います。

(木村委員)

利用者の想定と、アクセスはどのような施設でも必要だと考えております。

駅前の再開発に携わって来ましたが、利用者の想定と来館手段、これらが想定されていないとハードの整備はできません。

又、会長からもお話がありましたが、私も駐車場は街全体を見て配置されるべきだと思います。一つ一つの施設でそれぞれの駐車場を構えることは、コンパクトシティを考える上では矛盾があります。

反面矛盾いたしますが、駐車場の問題で大変気になるのが、ペルチの平面駐車場が無くなる事です。ウイングの時代から、来店者のアクセスは圧倒的にマイカーでした。そのことを考えますと、商業施設のペルチにとって、自前の駐車場がなくなることは、致命的な結果になる懸念があります。

計画が、事業採算の観点から規模を縮小していることは理解できますが、当初計画からどの部分がどのように縮小されたのか、さらにソフト面で、この分野では日本で有数だと言えるような図書館になるのか。どのような特色のある図書館を造るのかを伺った上で、又質問させていただきたいと思います。

又、イメージ図の中にツェッペリンの絵がありますが、設計デザインのどの部分に取り入れられて行くのか教えてください。

(鈴木所長)

利用者の想定ですが、大規模開発交通計画マニュアルに基づいて、施設による発生集中の原単位により、集客人数等の把握をしています。

これに基づけば、平日で約1,000人、休日で約1,300人と考えています。又、アクセス手段ですが、パーソントリップ調査による、交通手段の分類をしています。

ツェッペリンのデザインの件ですが、あくまでイメージ図は技術提案の中で企業が作成したもので、デザイナーに聞いたところ、建物右上の四角く突き出た部分だと伺っています。

(木村委員)

土浦市はつくば市と比べて、つくばにはない文化都市を目指すべきだと私は思っています。

つくば市とは違った都市の魅力で、質の高い日本一を目指す。その上で、インチキは許されない。

説明いただいたこの部分を見て、ツェッペリンだとはだれも思えない。デザイナーが、土浦やツェッペリンの歴史を知らないのではないのでしょうか。

以前から提案していますが、水戸市の駅前に黄門さまの銅像があるように、駅を降りてすぐ目につく所に、飛行船のモニュメントを作っていただきたいと思っています。精巧に作られたモニュメントを、友好都市であるフリードリッヒスハーフェン市からプレゼントしていただくこと等を含めて、検討していただきたいと思っています。

次に、ペルチの運営母体であるJR東日本は地権者ですが、駐車場が無くなるこの基本計画を了解しているのでしょうか。ペルチは、土浦の商業を考える上で重要な商業施設です。過去に1年半閉店していた時には、土浦市民にも来訪者にも大変なひんしゆくをかいました。又そのようなことがあれば、ウララの閉店の二の舞になってしまいます。それだけは、回避していただきたい。

(鈴木所長)

JRは、再開発について転出という意向を示されています。現在は、一部市の土地を含むJR所有の部分について駐車場として利用されている状況です。

(中川会長)

中心市街地の将来像のテーマに、歴史が息づき人々が集うというフレーズがありますし、図書館は歴史が集約される所でもあります。木村委員の意見は重要な提案ですので、組み入れていただきたいと思います。

(勝田委員)

何点か伺いたいのですが、まず、駐輪場について、リンリンロードも近くにありますが、学生利用が多いことが予想されますので、自転車での来館者は大切だと思います。1階の平面図では、駐輪場が示されており、初期の計画では121台だったのが、78台と示されています。床面積が変わらないのに、台数がここまで減るのか伺いたい。

又、資金計画について54億円の内、保留床の処分金がグラフで見ると大分大きく見えるのですが、ウララビル等の坪単価と比較して、400㎡の保留床で幾らくらいを見込んでいるのか伺いたい。

(鈴木所長)

駐輪場は、当初2層を検討しておりましたが、1層になったことによる減数です。

又、ここでいう保留床は民間に売って処分する部分です。今回保留床は大きい意味で、図書館やギャラリーについても市が購入する保留床でありますので、公共部分と民間部分と両方あります。この大半が公共施設にあたります。その全体として30億7千万円。公益施設として28億5千9百万円。民間として約2億1千万円ということです。

(勝田委員)

駐輪場に関しては、必要性を鑑みて1層式にされたと思いますが、費用がそれほど変わらないのであれば、需要を見て柔軟に検討いただければありがたいです。

(鈴木所長)

十分に検討させていただきます。

(山根委員)

1点目は、バイクでの来館については、どのように計画されているのでしょうか。

2点目は、美術展示室が前の計画にもありますし、今回はその部分が広がっています。この管理はどかが担うのか。又、美術品の収蔵庫が見当たりません。今、市立博物館の絵画等が新治地区に収蔵されていると聞いていますが、そこに収蔵され、ここでは展示だけされるのでしょうか。

3点目は、イメージ図を見るとギャラリーと言うよりも、ロビーの壁に数点の絵画が展示されている印象を受けます。ここが美術品展示室として独自に特色がでる計画なのでしょうか。

最後に図書館ですが、3階は事務室と聞きましたが、図面では自動書庫と描かれています。事務室と書庫がどのような配置になるのか。蔵書計画の冊数について教えていただきたい。又、具体設計に入る前に市民の意見を取り入れる場が行程の中に位置付けられているのか教えてください。

(鈴木所長)

バイクについて、具体的な台数はありませんが、駐輪場の台数の中に含んでおります。

(土浦市文化課杉田課長)

美術展示室について、現在亀城プラザで展示会を実施しておりますが、スペースが不足することから面積を増やしています。

絵画等の管理ですが、文化課において管理いたしますが、具体的な計画は今後検討が進められることとなります。収蔵庫については、博物館と新治に収蔵しているものも含めて、美術品展示室内の収蔵庫に収められる予定です。

イメージ図についてですが、実施設計はこれからですので、移動式の壁等を利用しながら美術展示室らしい仕様にして行きたいと考えています。

(土浦市新図書館開設準備室大貫室長)

図書館事務室と自動書庫のご質問ですが、イメージ図では3階の途中から自動書庫が描かれていますが、自動書庫は通常、天井高を高く設計しますので、4階の一部分に自動書庫が収まり、すぐ近くに事務室が配置される予定です。

蔵書計画ですが、ご指摘の通り前回の計画から蔵書冊数を減少しておりますが、全国の図書館活動が活発な上位10館の平均値から、又土浦市の人口規模から算出し、56万冊から60万冊規模の蔵書計画を立てています。詳細な内訳はこれから詰めて行く事となります。

又、市民の方々から意見を伺う機会については、前回の設計にあたってワークショップや説明会を開催して反映した部分もありますので、今回も同様の手順を踏んで、ご意見を取り入れた図書館を造りたいと考えています。

(木村委員)

個人的な体験ですが、学生時代に、図書館では学校で学べない数多くの発見がありました。様々な年代や職業の方が集まる場所で、自分が興味をもった事に、先輩世代の方からアドバイスを頂ける、課外学習の場のようなものでありました。図書館での貴重な出会いから、自分の世界が広がり、今日の自分があるようにも思え、さまざまな人やできごととの出会いに感謝しております。

音楽との出会いもそうでした。図書館企画のミニコンサートやイベントなどが可能な、視聴覚施設の計画はどうなのでしょうか。

つくば市の科学文化都市に対して、土浦が誇れるものは、歴史を背景とした文化都市だと思います。今年開催したBASARA展が良い例で、若い方を中心に全国から2万数千人が訪れ、土浦が全国的になったかと思わせるほど、まちなかを賑わしました。

先ほど飛行船の話に触れましたが、学術的なことを含め、しっかりした資料の集積が必要な

のだとBASARA展を見ていて思いました。

社会教育センターの所長をされ、図書館長も経験されていた方から伺いましたが、土浦の歴史資料の充実は誇れるものだと伺いました。ただそれらは目の目を見ないので、上手くリンクできないものかなと思っています。

(大貫室長)

音楽の話は図書館で取り組めることをご説明いたします。

現在、文京町の図書館で、クラシックやジャズの音楽CDの貸し出しは実施しております。その他、音楽配信が図書館業界にもありますので、22年度から登録制で楽しめるサービスを展開しています。新図書館でのサービスの詳細は設計と同時に検討して行く事となりますが、他の地区の事例ですと、小さいコンサートを主催したり、地元の団体等と共催する等、図書の貸し出し以外にも色々な事業を取り入れて行きたいと考えています。

(杉田課長)

BASARA展は大変好評をいただき、遠くは九州・北海道と全国から2万8千59名の方に来館いただきました。博物館では、好評を受けて第二弾の取り組みを検討しております。

土浦市の歴史資料については、第二次市史編纂にあたり、学芸員を中心に資料解説等を進めております。

本市にゆかりのある画家や書画家の作品も、今徐々に集めており、機会があれば特別展を開催して行きたいと考えています。

(池田正雄委員)

閲覧コーナーは何席あるか伺いたい。図書館には読書や寛ぐなど色々な目的があると思います。高校生がたくさん図書館を利用する雰囲気を作れば良いと思います。

小会議室や小ホール等で小さなイベントを開催する等、人々が集まる場所にすべきだと思います。著名な方の講演や、会合を開くときに図書館の会議室を利用するなど、読書以外で人が集まる施設が必要だと思います。

今回削られていますが、前回の設計では情報センターに何をイメージされて計画していたのか伺いたい。

蔵書について、現在の図書数何冊で新図書館になると何冊になるか、又専門書がそろっていれば学生にも利用するような指導が出来ますし、どのような種類の本が増えて、どのような特色を出して行くのかは重要だと思います。

ネット社会と言われる中で、CDの貸し出しは減っていると思います。このあたりの時代の流れを把握することも重要なことだと思います。

(大貫室長)

閲覧席については、これからの設計の中で作り込んで行きます。参考ですが平成19年の前回設計においては、約400席を計画しておりました。池田委員のご指摘の通り、土浦には高校生の利用が多いと思います。県南生涯学習センターでも勉強する学生が多くみられますので、その役割を図書館が担うことは考えております。

又、学生他、幼児から高齢者まで幅広い世代が利用しやすいような閲覧席の形態を考えて行く方針です。

本の構成ですが、現在の図書館の蔵書冊は約32万冊です。新図書館の収納可能規模は約56万から60万冊で設計いたします。詳細はこれからですが、土浦の歴史ある資料やコレクションが必要だというお話を伺いましたので、これからも要望を伺いながら、土浦市立図書館の特色を出して行きたいと思っています。

(鈴木所長)

情報センターの件ですが、当初考えていたのはインターネット環境を整備して、パソコン教室を実施したり、音楽映像等の機械を入れて編集も出来るような施設を考えていました。

これらは、家庭でも普及している背景から計画から除いたという経緯があります。

(説田委員)

まず一点目は、美術品展示室と記載されると、どうしても有料の美術館をイメージしてしまいます。ここでは恐らく一般の方が描かれた作品、市の公募展等に出品された作品の展示することを想定していると思いますので、一般的な絵画等の展示の設えを整えた「市民の憩いの場」的なスペースにするか、もしくはいわゆる「美術館」として考えているなら、国宝・重要文化財まで展示できる設備を備えてはどうかと考えます。今後、市でそのような美術品を保有することも考えられますし、素晴らしい美術作品の展示の企画が出た時に、受け入れられないということが無いようにして頂きたいと思います。後者の場合は、費用も掛かりますし、学芸員等の充実も必要となり難しい事とは思いますが、経費削減等して長期的に準備・計画して頂きたいと思います。

二点目は、図書室に関して、規模も蔵書についても中規模の図書館になると思いますので、個人的には万人受けを狙わず、土浦駅前の利用者、人の流れを見ると中高生・大学生が多いので、夜土浦駅周辺に迎えに来る親御さんや、語り合っって時間を潰す学生達が安心して滞在できるスペースをメインにした方が、蔵書も絞れますし、安心安全な駅前になると思います。

いずれにしても中途半端にならずに、ターゲットを絞り、「これがこの図書館の特徴」というような部分が必要だと考えます。

(杉田課長)

美術展示室については、無償で楽しめるものを検討しておりますが、一年を通して市民ギャラリーということではなく、当市にゆかりのある方の作品も展示することも検討しております。又、重要文化財も展示できるよう計画して行きたいと考えています。

(大貫室長)

ご指摘の通り、学生を意識した図書館づくりを進める方針でおります。世代別サービスを考えた時に、中学から大学生達のヤングアダルト世代層に対する、青少年サービスというものがありますが、ターゲットとして一番難しい世代であります。いわゆる活字離れと言われ、図書館に来なくなる世代であります。重点的に力を注ぐことで学生に足を運んでもらえるような計画を立てて行きたいと考えています。

(山根委員)

人の流れを作ることは重要であります。昨日「ウララマルシェ」を見てきまして、来場者が少なかったことから、現在の駅前では大変難しい状況だと感じました。

BASARA展で多くの来街者がありましたので、可能性はあると思います。博物館の企画展は大変勢いがあると感じており、社会教育委員会の際に伺ったのですが、今回は幕末に焦点を当てた企画展を準備していて、3か所の博物館で巡回展を検討しているとのことでした。土浦で企画した展示会が巡回するのは初めてで、これは一つの力だと思いますので、大変期待しています。

図書館に予定されていたインフォメーション機能は、市庁舎に配置することをお願いすることと、ツェッペリンのモニュメントを置く等、土浦に歴史エリアがあるということが駅前から分かるような工夫をお願いしたい。

蔵書のお話伺いましたが、市内に分館がありますがそれを含めた計画でしょうか。

(大貫室長)

説明したのは、分館を除いた新図書館の蔵書数ですので、市内全体として更に増えるということですが。

(中川会長)

駅前の活性化の面からは、図書館と市庁舎はセットで考える必要があって、庁舎にインフォメーションが設けられるとのことでしたので、連動して駅前全体をPRしていただきたいと思っています。

(大澤副会長)

三つあります。

一つは、図書館が駅前に建設されて、コンパクトシティの意味がより一層深まると思います。例えば小中学生の調べ学習を実施したい時に、図書館のコンシェルジュに相談すれば資料の場所を案内してもらえる事で、とても有利な場所になると思います。これを機能させるには、それぞれの施設の連携や案内役が重要になります。

二つ目は、環境面からも大きなインパクトがあると思っています。

筑波大学で震災の時に、電力を下げる議論をした際、図書館の設定温度を上げるという提案に対して反発がありました。結局、図書館の温度を上げると自宅でエアコンをかけてしまうことで、全体の温暖化に貢献できない。クールゾーンという考え方によって、図書館はきちんと冷やして、多くの学生達や高齢者の方々を受け入れ、館内の交流を図るということもメリットの一つでもありますので、環境面も強調されるべきだと思います。

三点目は、デザインですが、これは人が一番歩くところから見たパースだと思います。JR側からどのような見え方をするのか、外来者からの景観が気になるところです。

屋上空間はパブリックではないと思いますが、空を意識したところに、学生達が情報交流できるようなスペースを提供することも良いことではないかと思っています。

(土浦市都市整備部東郷部長)

インフォメーション機能は大変重要なことだと考えています。駅前に市役所が入りますので、これを大いに発揮して行くつもりです。さらに、施設の連携も大事ですので、ご意見を踏まえて、十分検討させていただきます。

屋上のパブリックスペースについて、駅前の核施設になりますので、情報提供して協議会等から意見を聞きながら、賑わい創出できるような設えに行きたいと考えていますのでよろしく願いいたします。

(事務局)

次回第6回会議は9月19日開催、又第7回会議は10月21日開催することを報告し閉会した。